

[特集]子宮がん

子宮がん?

しきゅうがん ってどんな病気

子宮がんには、子宮の奥にできる「子宮体がん」と、子宮の入口近く(頸部)にできる「子宮頸がん」があります。どちらも早期治療が大切で、その後の生存率を大きく左右します。この機会に子宮がんについて理解を深めて、予防と早期発見ができるようにしましょう!



早期発見がカギ!
定期的に検診を
受けましょう!

子宮がんとは

子宮がんには、子宮体がん・子宮頸がんの2種があり、それぞれ原因や特徴が異なります。

子宮体がんと子宮頸がんのちがい

	子宮体がん	子宮頸がん
発症部位	子宮の奥のほう	子宮の入口近く
発症年齢	50代~60代で最も多くなる	30代後半~40代で最も多くなる
危険因子(主な原因)	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性ホルモンによる長期的な刺激 ● ホルモンバランスの乱れ ● 肥満/糖尿病 	<ul style="list-style-type: none"> ● HPVウイルスへの感染 ● 喫煙 ● 免疫力の低下

HPVウイルスとは

HPVウイルス(ヒトパピローマウイルス)は、皮膚や粘膜の接触で感染するウイルスです。女性には子宮がんなどの原因に、男性には肛門がんなどの原因になることがあります。

検診を受けましょう

子宮がんはほとんどの場合、検診で早期発見ができます。子宮がんの検診には次のような方法があります。

問診

出血などの症状の有無・病歴・生活習慣などを確認します。この情報をもとに、医師が必要な検査を行います。

内診(触診・視診)

子宮・卵巣への触診や、肉眼での観察で、異常がないかを確認します。超音波検査を行うことで、子宮の奥や卵巣の状態もわかります。

細胞診・HPV検査

子宮頸がんの検査方法です。細胞診では子宮頸部や頸管から採取した細胞を顕微鏡で観察します。HPV検査では、細胞にHPVの遺伝子がないかを確認し、将来のがんの発症リスクも調べられます。

子宮頸がんの予防ワクチン

HPVウイルスへの感染が主な原因である子宮頸がんは、予防ワクチンによって発症のリスクを抑えられます。定期接種の対象となっているため、助成対象者は原則、自己負担なしで接種を受けられます。

令和6年度の対象者

- 1 小学6年生から
高校1年生相当の女子
 - 2 平成9年4月2日~
平成20年4月1日生まれの女子のうち
接種が完了していない方
- ※キャッチアップ制度

接種の時に必要なもの

- 予診票
- マイナンバーカード(健康保険証)
- 母子健康手帳

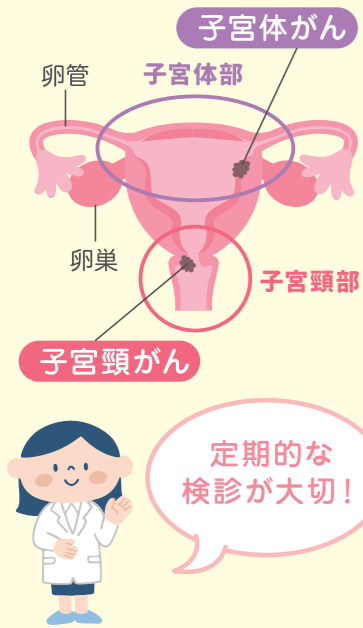
県外で接種を受ける場合

住民登録がある県以外で接種を希望している方は、事前の申請が必要です。くわしくは公的機関のホームページを確認しましょう!

子宮がんの検診を受けたい方は

落合病院では、産婦人科で子宮がんの検診を受けることができます。診察は毎日しておりますので、お気軽にご相談ください。

(監修:産婦人科 近藤恒正・高橋かすみ)



定期的な
検診が大切!

